

<全体分析>

試験時間 80 分

解答形式

記述・論述・選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数は前年と同じ3題であり、問題の総ページ数も前年13頁→14頁、論述量の合計は17行+計算過程記述→18行とほぼ同じであった。設問数の合計は20問→19問とほぼ同じであり、その中の小問数の合計は34問→38問とやや増加した。全体的な問題の分量は前年とほぼ変わらなかったが、前年はほとんど出題されなかった実験考察問題の割合が増加したので、難易度はやや難化した。

出題の特徴

例年、問題の文章量が多く、実験考察や1~4行の論述が出題される。

1つの大問にさまざまな分野の内容が含まれることが多い。

DNAや進化、系統・分類、医学的な内容を含む問題がよく出題される。新しい内容も多い。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

〔Ⅱ〕問6の誘導に関する考察問題は入試改革の方向性を踏まえた内容である。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔Ⅰ〕	記述 論述 選択	「細胞のがん化」 遺伝子 細胞周期 テロメア 細胞・呼吸	生物 基礎 ・ 生物	問2(4) プロモーターのシトシンのメチル化が転写を抑制することや、分裂後の娘細胞にも受け継がれることは高校教科書に記載がない。	標準
〔Ⅱ〕	記述 論述 選択	発生 細胞 進化・分類 神経	生物	問6(4) (2)において、卵割パターンが(く)であることを踏まえると、割球Ⅰの分裂によって生じた直方体の割球との接触面積が少ないと、十分量のタンパク質Aを受け取れない。	標準
〔Ⅲ〕	記述 論述 選択	「生物時計」 植物の環境応答 遺伝子 細胞・進化 ホルモン 遺伝 神経	生物 基礎 ・ 生物	問6 紫外線に対してDNAを保護する色素、表皮などの構造をもつようになったことを書いてもよい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

DNAや進化、系統・分類などの分野からの出題が多いので、しっかり学習しておこう。

論述問題で差がつくので、1~4行程度で要点をまとめる練習をしておこう。

同じような題材が繰り返し出題されることが多いので、数年分の過去問の研究をしておこう。